太田東西かわら版　２０１６．１

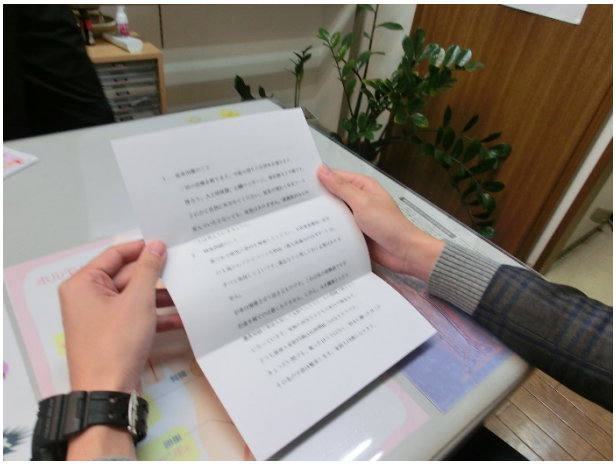
お正月の遺言状

「太田先生～、タイトル間違っていますよ！　お正月は、年賀状でしょ？」

いいえ、間違っていませんよ！
わたくしこと、太田憲一は今月３１日で５０歳になります。
皆さんと同じく私にも、“ 老病死 ”、着実に確実に近づいています。
視力１．５だったのが、ここ数年、近くがぼやけてきました・・・
お客様と一度お会いしたら、お名前バッチリ記憶していたのが、すぐに
思い出せなくなりました・・・
何を取りに来たのか？　忘れることも多くなりました・・・

しかし、「あ～まったく、年は取りたくないものだ・・・」なんて、
悲観はいたしません。
“ 老病死 ” は絶対に避けられない自然現象ですから、それを遅らせる努力は
しつつも、しっかりと受け入れて生きていきたい！

ということで
５０歳になる今年、２０１６年１月１日に遺書を書きました。
１月４日、帰省していた息子らが東京に戻る日、それを読んでもらいました。



これまで息子らとは、この相談室でいろいろ話し合ってきました。
進路のこと、友人関係など。素行不良を叱り飛ばしたこともあります。
暖冬のお正月でしたが、相談室は厳粛な空気が張りつめていました。

２人とも東京在住で、頻繁に長崎には帰って来れません。
おめでとう！のお正月も結構ですが、家族そろっての楽しいお正月はいつまで
も続かない、親はいつまでもいない、そう現実を認識させることも大切。
『親の死』。子どもにそれを忘却させないことが、子どもの自立心を養うことに
つながるはずです。

「太田先生、なにか病気なんですか・・・？もうすぐ、死ぬんですか・・・？」

いいえ、まだ大丈夫ですよ！！！
まだまだ『太田憲一の使命』、果たしていませんから。今、あの世からお迎えが来ても、お断りしたいと思っています(笑)
ただ、一寸先は闇。特に５０歳以降は、いつ、何が起こるかわかりません。
元気なうちに『自分の後始末』、記しておきたい。

「遺言状の内容、気になるんですが・・・ちょっと教えてもらえますか？」

いいですよ！　公開遺言状になって、皆さんに証人になってもらえるし(笑)
４つ記しました。≪延命治療≫　≪遺産相続≫　≪葬儀≫　≪子孫へ≫

私は最期の日まで漢方をいただいて、自然死で逝く予定です。
「満足感と達成感で、ピンピンコロリで逝く」
太田東西薬局漢方相談の、究極の導く先は、ここです！！
１日でも長く生きるための漢方ではなく、終わり良ければすべて良し！の漢方。
ボケずに、寝たきりにならずに、意味もなくダラダラ無駄に生きるのではなくサバサバとすがすがしく昇天する。
これまでたくさんのお客様の臨終に携わってきましたが、太田東西のお客様は苦しまずに、長く寝込まずに、ス～ッと旅立たれています。
「一切の延命治療を拒否します」　迷いなく記しました。

我が家に大した財産はありませんが、大した財産がない家族が、争っているようですね。お金が大好きというのは悪いことではありませんが、私の経験上、お金に困らない家族は、人間関係で困っていることが多いです。
「遺産相続は妻の考えを尊重するようにしてください。万一、相続で争った場合、強引に手に入れた方は子孫が衰退し、あっさり手放した方は子孫が繁栄するという法則もありますから、目先の欲にとらわれないように」

「葬儀は家族葬でお願いします。とは言っても、関係する業者さんやお客様の弔問依頼があるかと思います。その時は、お寺の納骨堂を案内してください。
回忌など法事は一切必要ありません。私は生きている間に成仏しますので」

「子孫に託すこと。それはこれまで記してきた太田東西かわら版を読めばわかります。自分の幸せばかり、家族の幸せばかり考えず、世のため人のため、
人に喜ばれる人生を歩んでいってほしい。それをあの世から私は応援します」

もちろん、遺言状は
妻にも！

結婚２５年、東京生まれ東京育ちの妻が
よくぞ長崎で頑張ってくれました。

つくづく、家庭も仕事も
“ 嫁さん次第 ” だと感謝しています。

夫の遺書を読んだ後、
「あなた～、私を残して逝かないでよ！」
涙するかと思いきや・・・・

「やったぁ～　決定権は私だって！」

３人の中の “ 勝者 ” となっていました～

さて、皆さんは『遺書』、すでに残していますか？
ここでちょっと本音を申し上げますが、７０歳を過ぎても遺書を書いていないという方は、いったい、何歳まで生きるおつもりですか？(笑)
「どう思っていたんだろう？」、突然死で亡くなった場合、遺族にモヤモヤさせないためにも、『人生の後始末』、キッチリ済ませておきましょう！

遺書というのは、もちろん延命治療の有無、遺産相続など必要な事項ですが
それよりも『自分という存在』を子孫に残すための文書だと私は考えています。
「自分がどういう志を持って生きていたのか？」「子孫に託すことは何か？」
『志のバトンタッチ』。それがほんとうの遺書ではないか。

人が死んだ後に残るものは、自分が得たものよりも、相手に与えたものです。
「太田先生はいつも真剣に聞いてくれた」「太田先生は本気で叱ってくれた」
「太田先生はよく笑わせてくれた」「太田先生はいっしょに泣いてくれた」
永遠に残るものは、目に見えるモノではなく、心に残る “ 想い出 ” です。

だから、満足いく遺書を残すためにも、家族を、周りの人を大切にしましょう！
人に喜ばれ、人に愛される人生を。人の心に残る人生を目標に生きるのです。
それが太田東西薬局のお客様への、私からの『遺言』です。